

2020年11月13日

2021年3月期 第2四半期 決算説明補足資料

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

株式会社大泉製作所

COVID-19影響により減収、第2四半期以降は回復基調も期間利益はマイナス

【売上】

- 主力事業の自動車既存品、空調用が顧客の生産調整等により減収
- 中国市場は増収、日本、欧米は第2四半期より回復基調
- 成長分野の電動化領域、光通信用は前年同期比増収

【収益】

- コロナ禍での工場合理化等による生産性向上を進めるも売上減により減益
- 国内工場の稼働調整助成金で営業外損益が良化

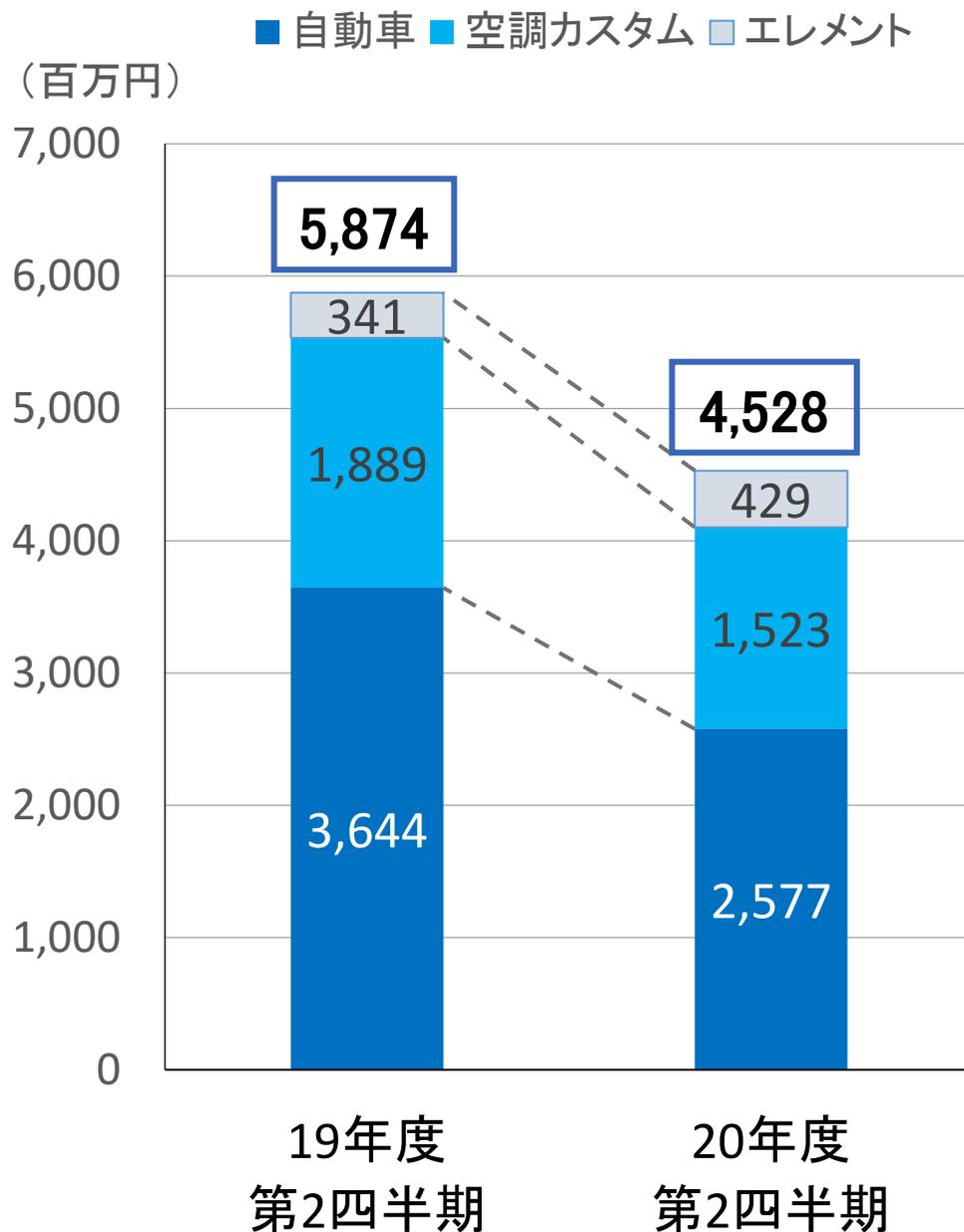
【B/S】

- 第2四半期以降の受注回復と借入枠増加により、借入金を一部返済

単位:百万円

	19年度第2四半期		20年度第2四半期		
	実績	構成比	実績	構成比	前年同期比
売上高	5,874	—	4,528	—	-22.9%
営業利益	320	5.5%	▲85	-1.9%	—
経常利益	277	4.7%	▲55	-1.2%	—
四半期純利益	210	3.6%	▲73	-1.6%	—

20年度第2四半期事業別売上高



事業	前年同期比 (百万円)	増減率	増減コメント
全体	▲1,346	-22.9%	<ul style="list-style-type: none"> ●5月で底を打ち、6月以降回復 ●中国市場は増加、日本、欧米は回復も、ASEAN販売は不振が続く
エレメント	+ 88	+ 25.8%	<ul style="list-style-type: none"> ●光通信用は5G向け需要により増加 ●既存品は車載、家電用が減
空調カスタム	▲366	-19.4%	<p>【空調】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第2四半期は猛暑と巣籠消費等でルームエアコン用が増加 ●ASEAN販売は回復に遅れ <p>【カスタム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●工作機用は顧客内の当社シェアアップと中国市場回復により増加
自動車	▲1,067	-29.3%	<ul style="list-style-type: none"> ●既存品は中国市場は増加も、日本、欧米、ASEAN販売が減少 ●電動化領域は新規品の納入本格化等により前年同期比増加

20年度第2四半期エリア別売上高

- 日本はCOVID-19影響による国内自動車の生産調整等により減少
- 中国販売は市況回復によりすべての事業で増収
- ASEAN向けはCOVID-19影響による東南アジア・インドの市況低迷で回復に遅れ

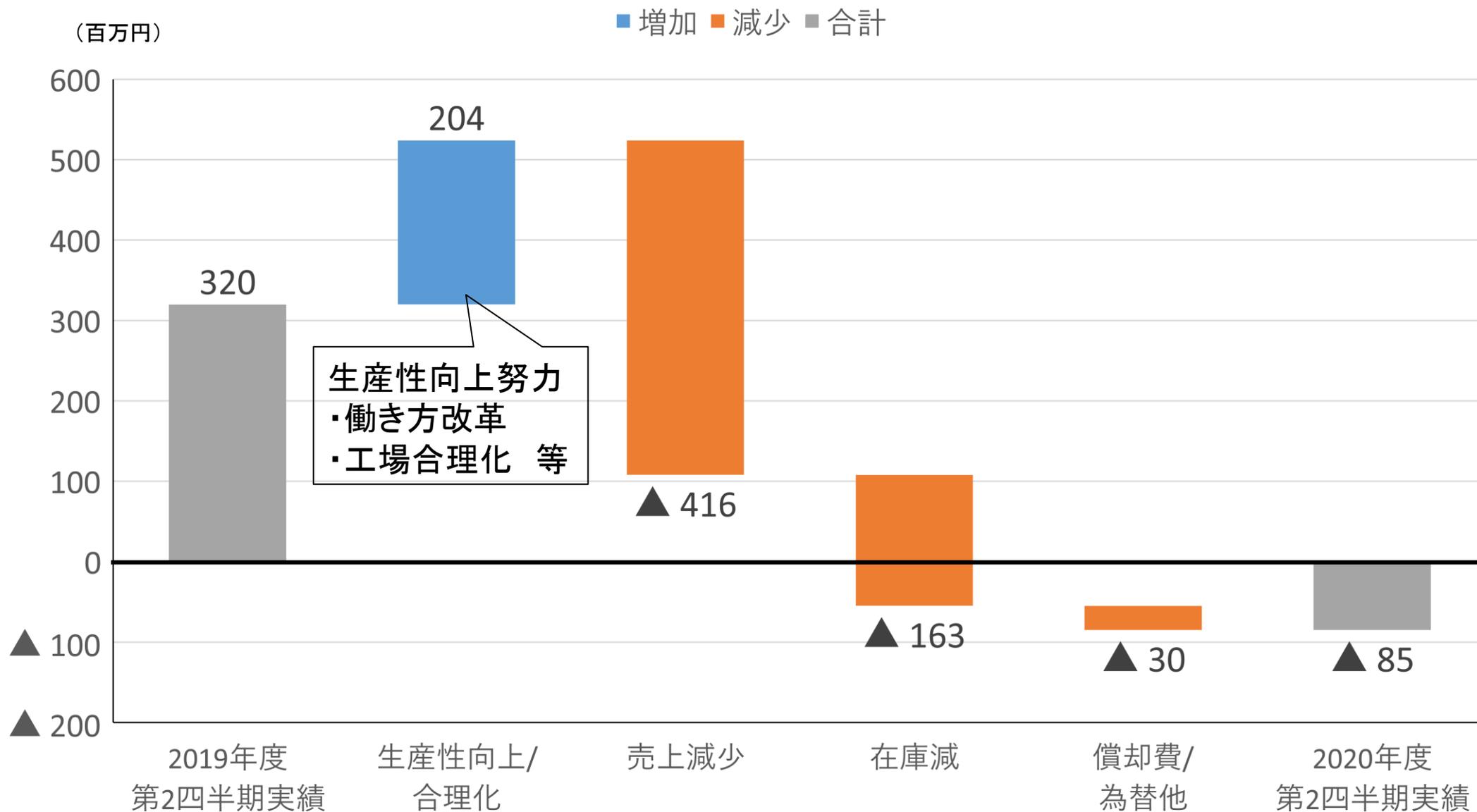
(単位:百万円)

エリア	売上高	エリア別 構成比	前年同期比	増減率
日本	2,305	50.9%	▲ 882	▲ 27.7%
中国	1,189	26.3%	+ 190	+ 19.0%
ASEAN	429	9.5%	▲ 371	▲ 46.4%
その他	605	13.4%	▲ 284	▲ 32.0%
合計	4,528	100.0%	▲ 1,346	▲ 22.9%

※エリア区分は当社の納入先を基準とし、各売上高には納入後に他国に輸出されるものが含まれます。

20年度第2四半期利益増減

20年度第2四半期 営業利益増減要因



20年度第2四半期貸借対照表

- 受注回復と期中での主力行の借入枠増加(+10億円)により前期末短期借入金を返済
- 海外子会社へのIFRS適用により固定資産及び有利子負債が増加(約+5億円)

◇資産の部

	20年3月	20年9月	増減
流動資産	6,510	5,662	▲848
現金預金	2,054	1,353	▲700
売上債権	2,070	1,911	▲158
棚卸資産	2,244	2,292	+47
その他	141	104	▲37
固定資産	2,931	3,451	+519
有形固定資産	2,628	3,127	+499
無形固定資産	125	130	+5
投資その他	178	193	+15
資産合計	9,442	9,113	▲329

◇負債・純資産の部

(単位:百万円)

	20年3月	20年9月	増減
流動負債	3,850	3,091	▲758
仕入債務	1,156	856	▲300
有利子負債	2,063	1,606	▲458
その他	630	629	▲0
固定負債	3,413	3,911	+497
有利子負債	2,650	3,176	+526
その他	763	734	▲28
負債合計	7,264	7,003	▲260
純資産合計	2,178	2,109	▲68
株主資本	2,122	1,981	▲141
その他	56	128	+72
負債・純資産合計	9,442	9,113	▲329

第2四半期以降の受注回復により売上予想が増加、各段階利益は黒字化

【売上・収益】

- 自動車、空調カスタムの受注回復が前回予想に比べ早期化
- 下期(10-3月)累計では、前年同期を超える見込み
- 成長分野の売上は当初予想通り進捗
- 上期に講じた生産性向上施策を継続し、コストを抑制

【配当について】

COVID-19による影響は予断を許さず、今後の当社業績に与える影響が不透明な状況のため、期末配当額は現時点では未定とさせていただきます。

20年度業績予想(修正)

OHIZUMI

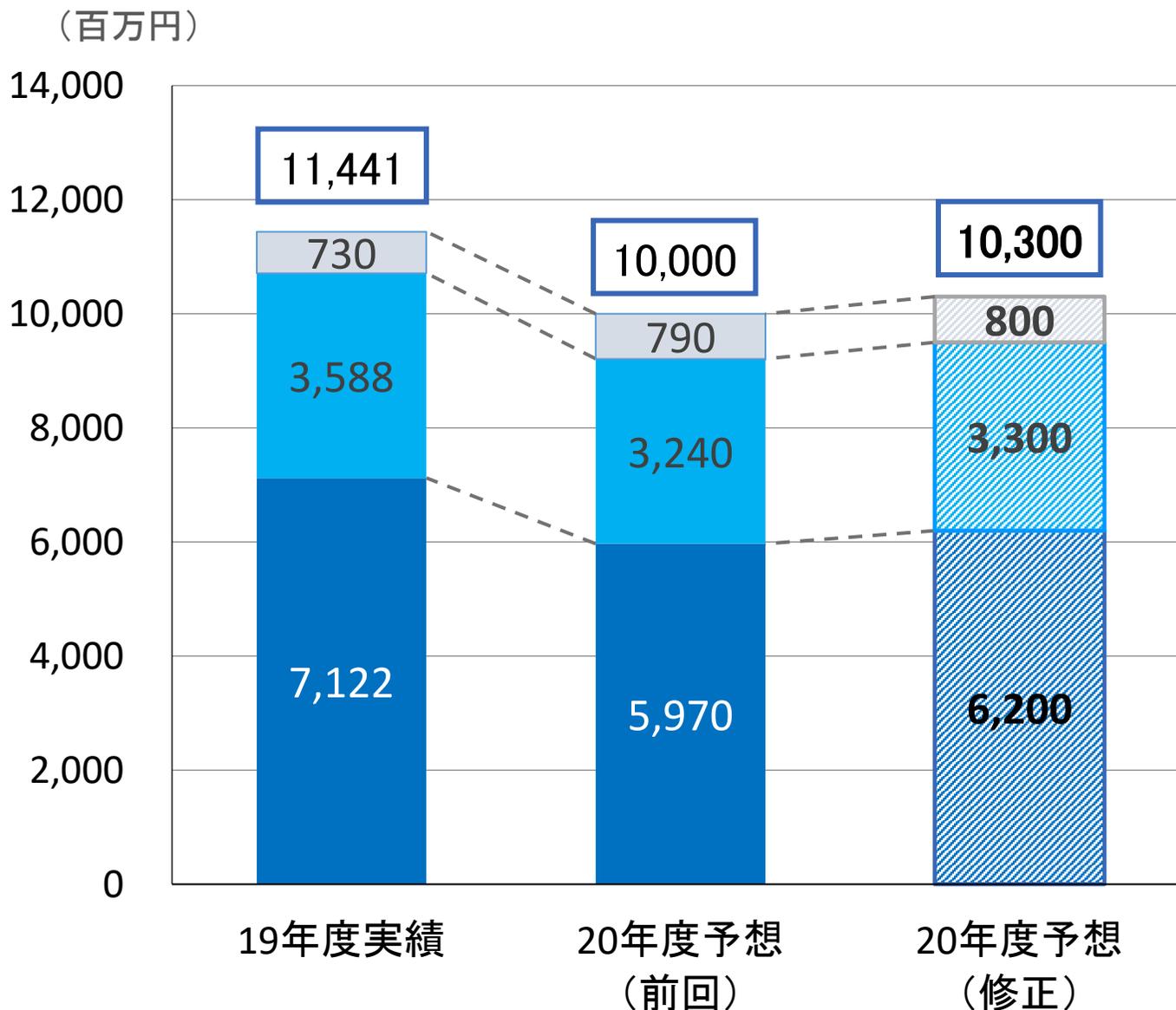
単位:百万円

	19年度		20年度予想					
	実績	%	前回 予想	%	修正	%	前期比	前回 予想比
売上高	11,441	—	10,000	—	10,300	—	-10.0%	+3.0%
営業利益	465	4.1%	▲60	-0.6%	45	0.4%	-90.3%	—
経常利益	393	3.4%	▲40	-0.4%	60	0.6%	-84.7%	—
当期純利益	220	1.9%	▲80	-0.8%	15	0.1%	-93.2%	—

※上記の業績予想には、現時点での入手可能な情報に基づく将来の予測が含まれております。

20年度通期事業別売上高予想

■自動車 ■空調カスタム ■エレメント

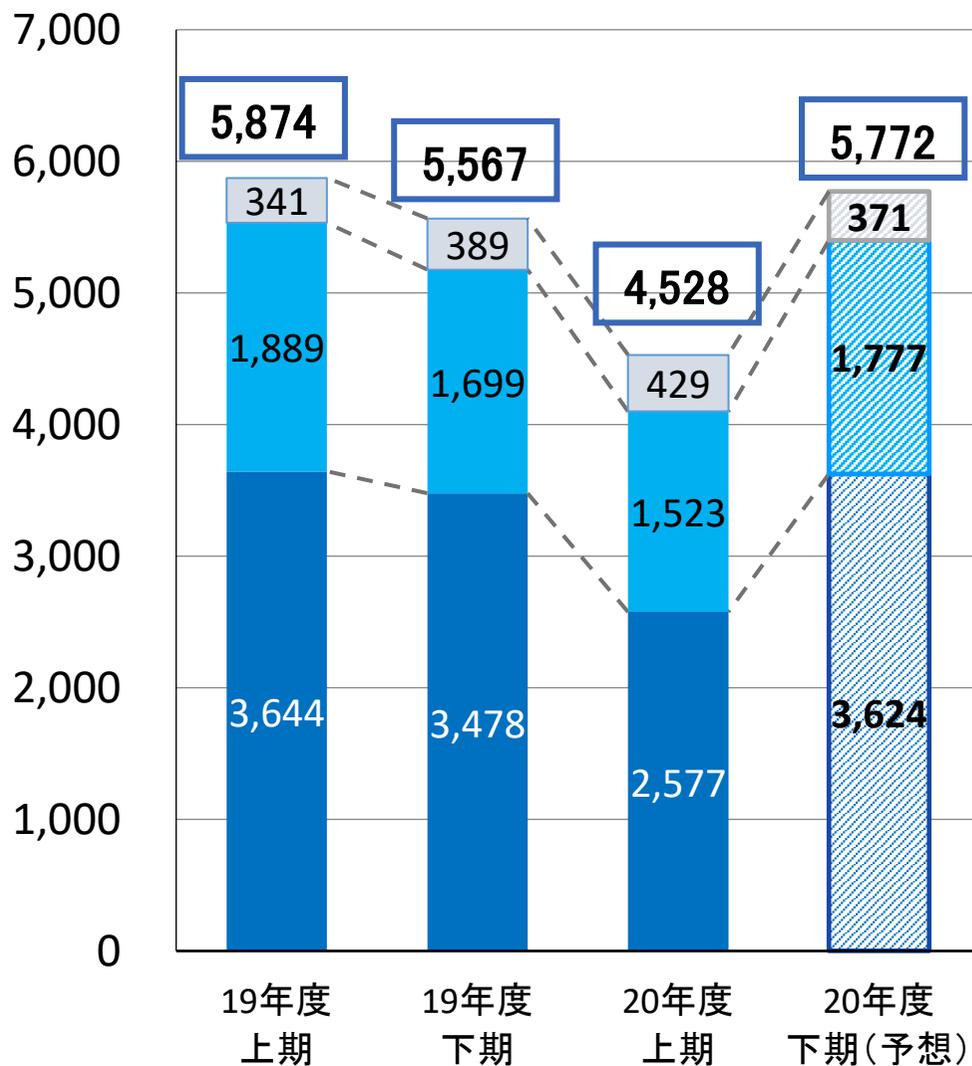


事業	前回予想比 (百万円)	増減率
全体	+ 300	+3.0%
エレメント	+ 10	+1.3%
空調 カスタム	+ 60	+1.9%
自動車	+ 230	+3.9%

20年度事業別売上高予想

■ 自動車 ■ 空調カスタム ■ エlement

(百万円)



事業	下期予想 (前年同期比)	増減率	増減コメント
全体	+ 205	+3.7%	●下期(10-3月)累計では、前年同期を超える見込み
Element	▲ 18	-4.6%	●家電向け等既存品は不振が続く ●光通信用は米中問題等で減速も、前年同期比増加(+70%)
空調 カスタム	+ 78	+4.6%	【空調】 ●回復が遅れていたASEAN向けは下期より上向く ●中国市場は継続して好調 ●空調全体は前年同期比微増 【カスタム】 ●工作機用の需要が回復
自動車	+ 146	+4.2%	●電動化領域は受注済製品の納入本格化と新規製品の採用増により前年同期比増加(+40%) ●既存製品は前年同期比微増

【2020年度】 コロナ禍において生産性向上により黒字化

- 下期 : 受注回復により工場稼働率上昇
 - 工場合理化等の生産性向上を継続

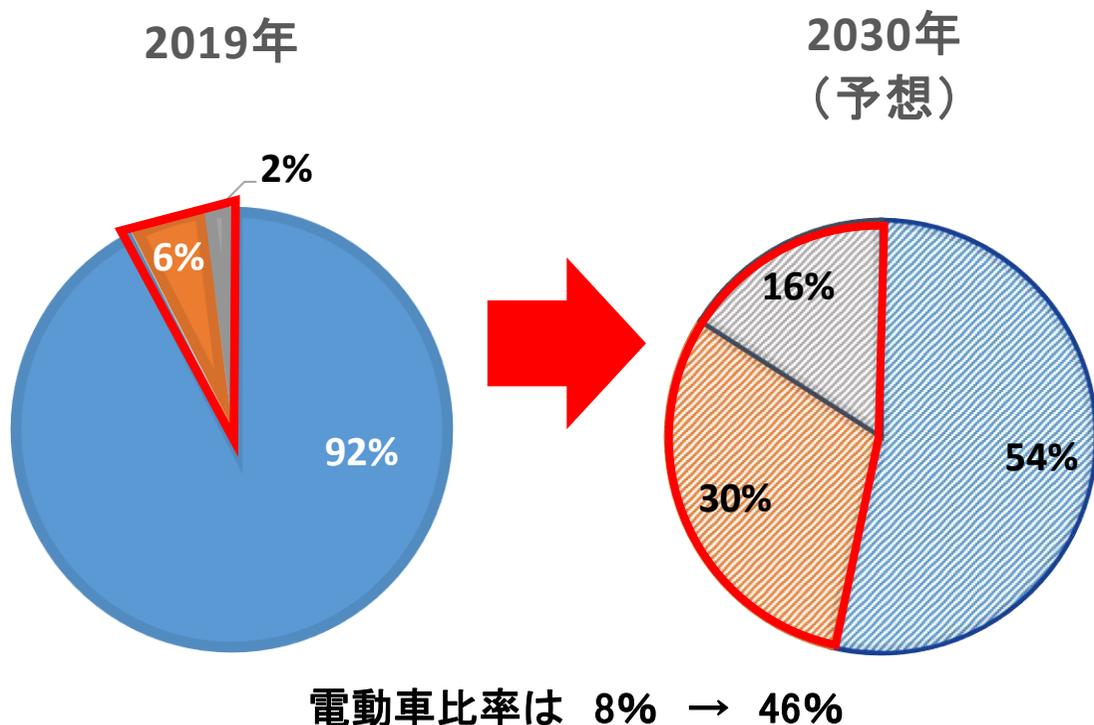
【2021年度～】 中期計画の経営戦略に沿って成長

- 自動車 : 車両販売回復、電動化比率が大幅増
 - 二次電池用、ヒートポンプ用の拡販に注力
- 空調 : 世界的猛暑や巣籠需要による空調販売の増加
 - 主要顧客の当社シェアアップとVE品の横展開に注力
- エlement : 5Gサービスの開始でインフラ投資が加速
 - 光通信用Elementのシェアアップに注力

今後、自動車の電動化が進む

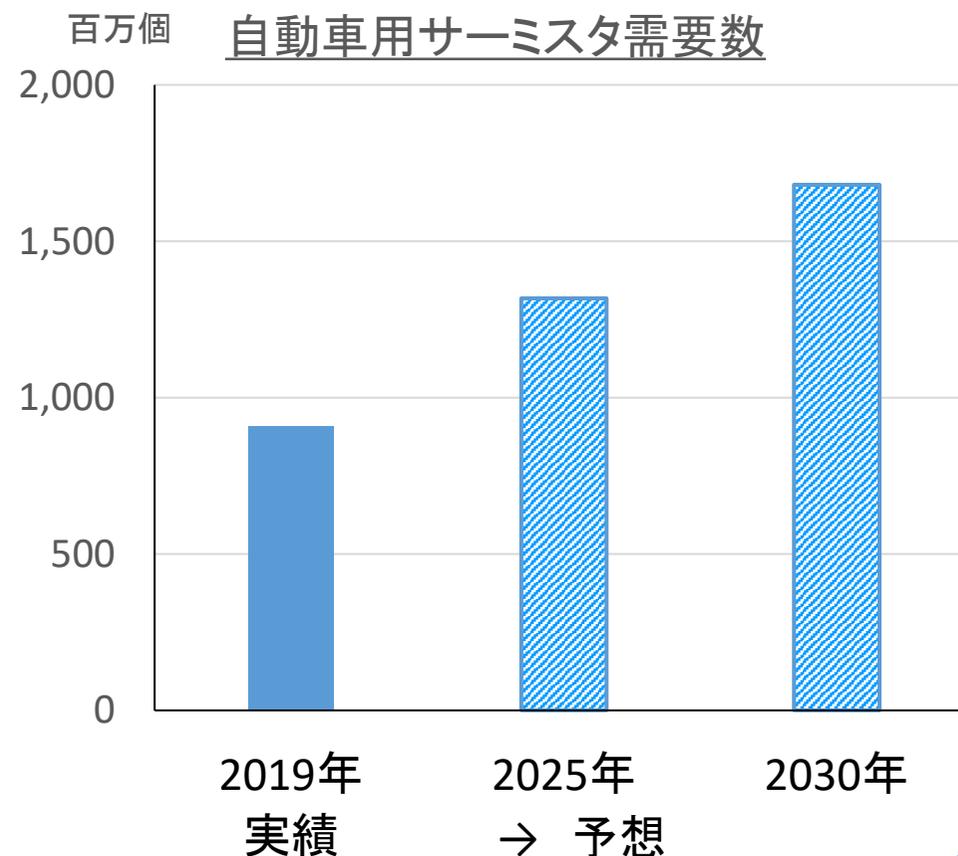
動力別自動車生産台数

■ 内燃車 ■ HV/PHV車 ■ EV/FCV



動力タイプ別サーミスタ搭載数(個/台)

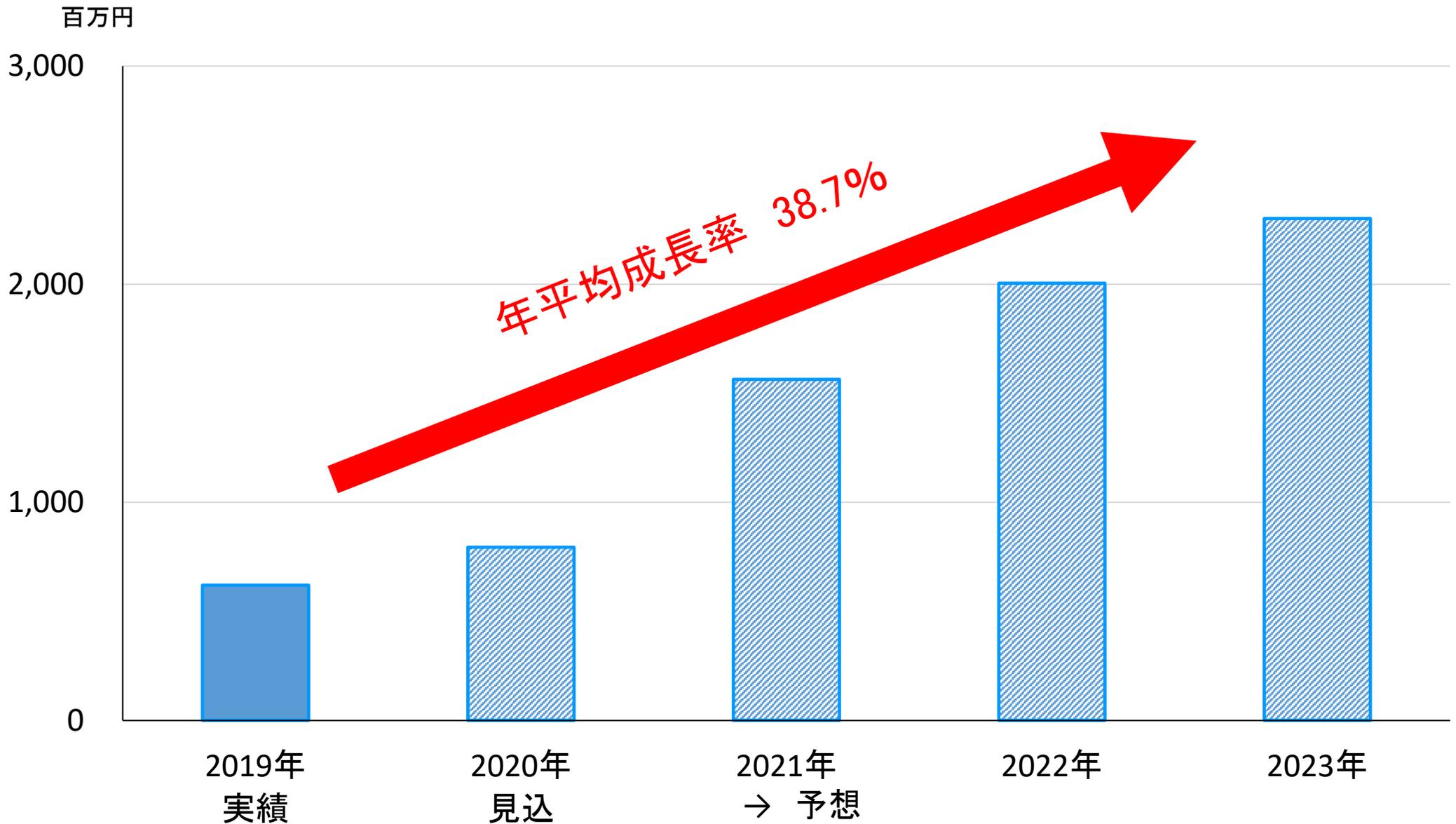
内燃車	電動車	
	HV/PHV	EV/FCV
10~15	15~30	20~25



* 出所: 2020年8月FOURIN社及びMARKLINESデータによる当社試算

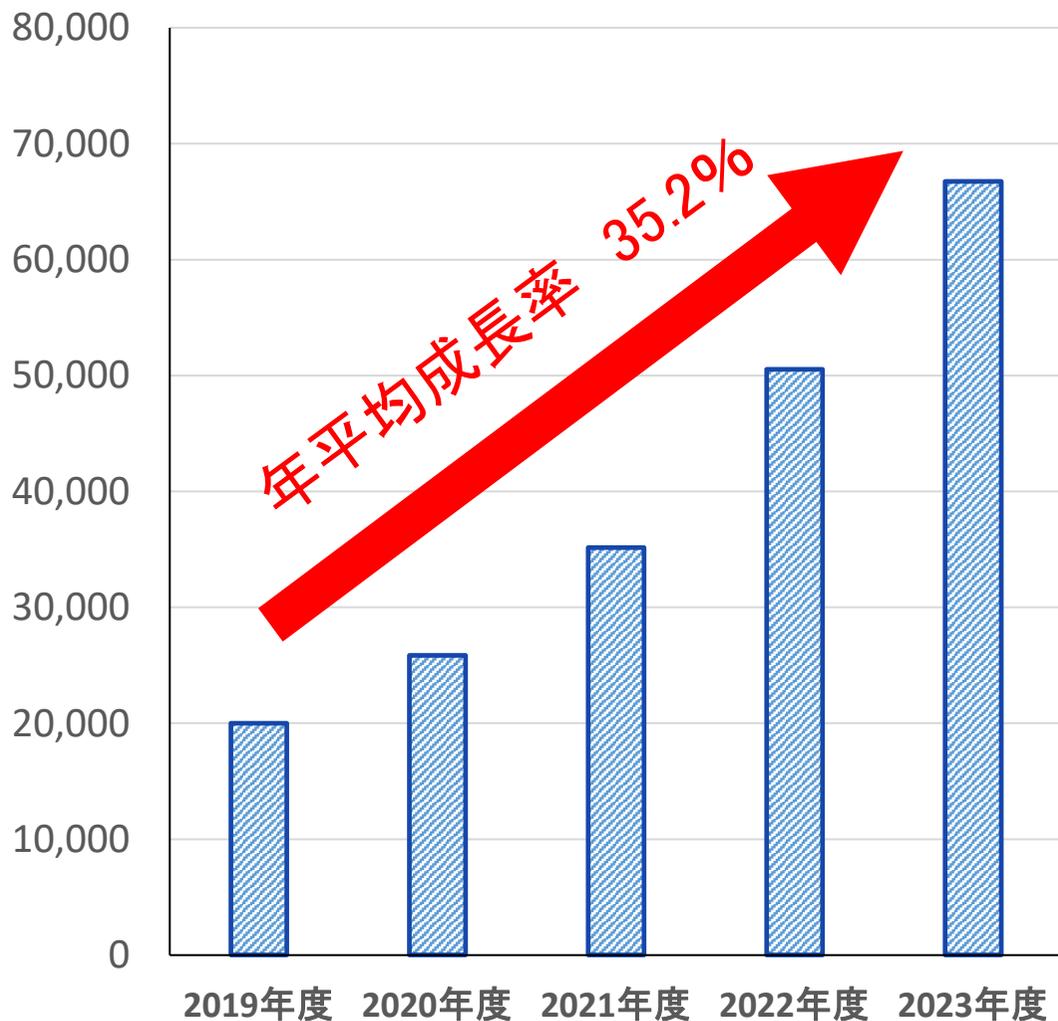
* 出所: 2020年8月FOURIN社及びMARKLINESデータによる当社試算

電動化領域売上高

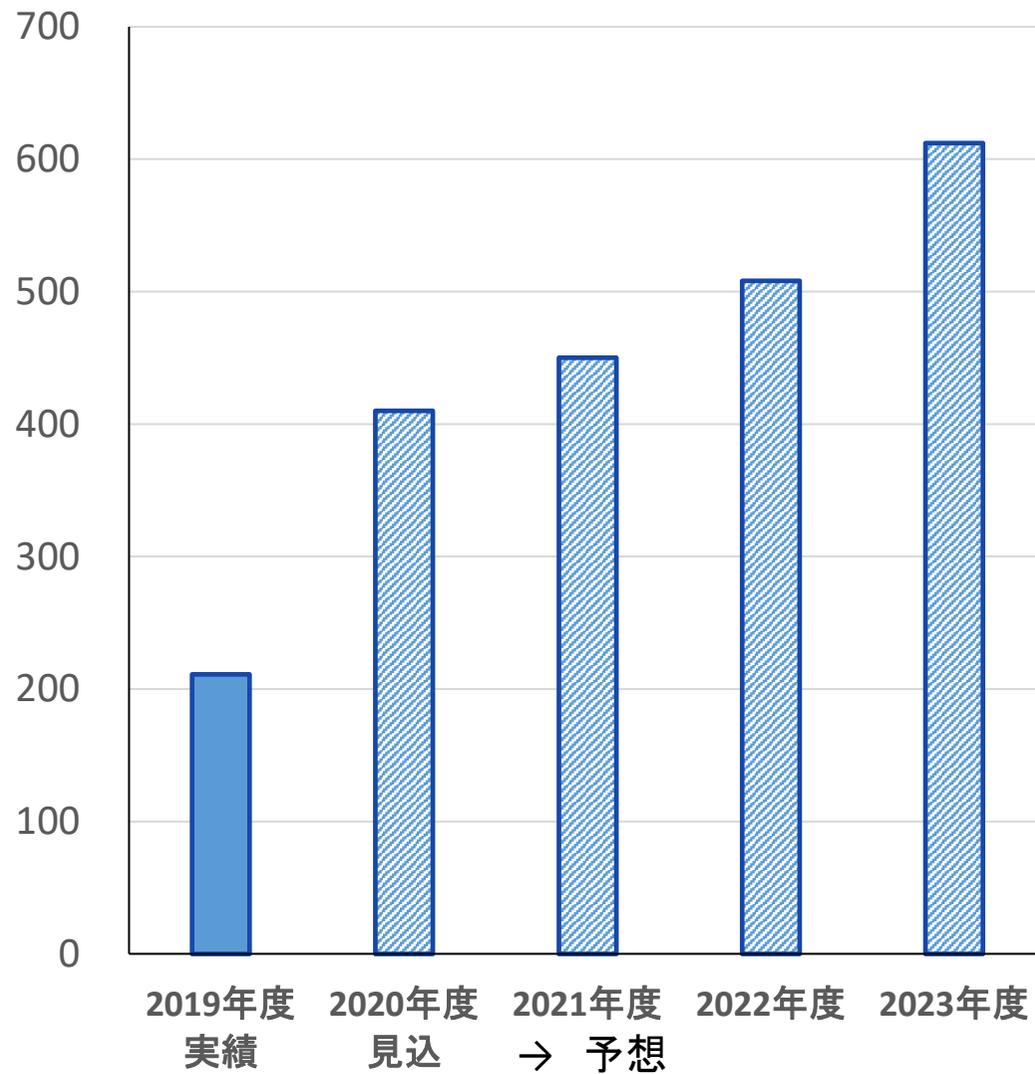


5Gサービス開始で光通信市場が拡大

千個 光通信用サーミスタ需要数(予測)



百万円 光通信用売上高



* 顧客聞き取り情報による当社試算

注意事項

この資料に掲載されている、株式会社大泉製作所の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的
事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは、現在入手可能な情報から得ら
れた株式会社大泉製作所の経営者の判断に基づいており、内容の正確さについては細心の注意を
払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しまして、当社は一切責任を負
うものではありませんのでご了承ください。投資に関する決定は利用者ご自身のご判断において行
われるようお願いいたします。

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

IR お問い合わせはホームページからお願いします。

<http://www.ohizumi-mfg.jp/contact/>